

令和4年度

教 職 課 程

自己点検・評価 報告書

富士大学

令和5年3月

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	2
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく 協働的な取り組み	2
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	4
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	6
III	総合評価	8
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	8
V	現況基礎データ一覧	8

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

(1) 大学名：富士大学経済学部

(2) 所在地：岩手県花巻市下根子 450 番地 3

(3) 学生数及び教員数（令和 4 年 5 月 1 日現在）

学生数：教職課程履修 145 名／学部全体 751 名

教員数：教職課程科目担当（教職・教科とも）21 名／学部全体 36 名

2 特色

本学では、中学校教諭（社会、保健体育）および高等学校教諭（地理歴史、公民、商業、保健体育）の一種免許状が取得できる。教職志望の学生に対して、教職支援センターが中心となり学修支援を行っている。また、「学び続ける教員育成プログラム（ELL）」を実施し、教員採用試験に向けた指導を行っている。

Ⅱ 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

[現状説明]

教職課程は、教員免許状を取得するために教育職員免許法で定められた単位を履修する課程である。学科により取得できる免許が異なり、経済学科は社会の中学校教諭一種免許状、地理歴史・公民の高等学校教諭一種免許状が取得できる。経営法学科は保健体育の中学校一種免許状、商業・保健体育の高等学校一種免許状が取得できる。

免許状の取得は教員を志望する者にとってはきわめて重要な意味を持ち、履修にあたっては最善の努力と綿密な計画のもとになされなければならない。よき教師を待ち望んでいる生徒達に、一人でも多く、有能な教員を送り出すために設けられたのが教職課程である。

[長所・特色]

経営法学科スポーツ経営コースで保健体育の教員免許状が取得できる。

[取り組み上の課題]

特記事項なし

<根拠となる資料・データ等>

富士大学教職課程履修規程 令和2年2月19日改正 4月1日施行
履修ガイドブック 富士大学 令和4年 p.71～

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

[現状説明]

教職課程の円滑な組織運営及び充実改善等に係る事項について、調査・企画立案・審議を行うことを目的とした教職課程委員会が設置されている。学長直轄組織であり、委員は教員および職員の中から学長が選任・委嘱し、課程の内容、授業科目および担当者、教員免許、履修指導、教育実習等に関すること等について調査・企画立案・審議を行う。教務部に事務局を置いている。

教務部では、教職課程関係事務を遂行するとともに、教職課程履修学生の履修状況についてきめ細かなチェックを行い、学生に助言を行っている。

[長所・特色]

教職課程委員会・教職支援センターと教務部の連携が図られている。

[取り組み上の課題]

特記事項なし

<根拠となる資料・データ等>

富士大学教職課程委員会規則

2022 年度 第 1 回～第 3 回 教職課程委員会資料

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

[現状説明]

本学に入学する学生の約 30%が教員免許状取得を目指し教職課程の履修をスタートする。教員免許状取得を目的にして大学に入学する学生が多いことがわかる。自分に対して親身になって関わってくれる教師との出会いがあり、そのような教師になりたいと願っている学生や、将来、スポーツ指導ができる教師になりたいという願いを持った学生が多い。

教職課程の履修継続には条件があり、1 年次終了時点で卒業必要科目の GPA が 2.0 に満たない学生は教職課程の受講資格を失うこととなっている。

[長所・特色]

教員免許状取得を取得し、中学校・高等学校の教員を第 1 志望とする学生に対し教職ゼミを設置している。希望する学生は、2 年次の専門基礎演習から 4 年次の専門演習Ⅱまで所属し、教育についてより深く学ぶ。

[取り組み上の課題]

教職課程の履修を開始する段階におけるガイダンスを適切に実施し、教員免許取得に向けた目的意識を持たせるようにする。学生募集においては、教師を目指す生徒に対して、本学教職課程の魅力を十分に伝えるようにする。

<根拠となる資料・データ等>

2022 年度 第 1 回～第 3 回 教職課程委員会資料

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

[現状説明]

学生の教職に関する支援を行うことを目的とした教職支援センターを設置している。教職支援センターでは、教職に関する相談活動（採用試験、介護等体験、教育ボランティア等に関するもの等）、教職関係情報（教員採用情報等）の収集・提供、教職関係資料の整備・活用（教職関係月刊誌や採用試験問題集・参考書を購入し、学生の閲覧に供する等）を行っている。

令和2年度から中学校・高等学校の教員を目指し、学び続ける指導者として活躍する人材を育成するため、学び続ける教員育成プログラム（ELL：Program for Educators to be Lifelong Learners）を実施し実力養成を図っている。このプログラムは、教科指導はもとより、自ら学び続ける存在として生徒のモデルとなる教員の育成を目指している。教科指導、生徒指導、進路指導、部活動指導等、様々な場面において、自ら学び続ける指導者として活躍する指導者の育成を目指している。プログラムは課外学修として行われ、教職課程の授業で学んだ内容を更に深める講義、教職専門に係る教員採用試験に向けた実力養成等を行っている。

また、岩手県教育委員会との協定事業である『スクールトライアル事業』を活用し、小・中・特別支援学校における様々な活動支援を経験し、学校教育に対する理解を深め、教員を目指す学生の意識高揚を図っている。

本学のキャリア支援組織であるキャリアセンターと連携し、採用試験に向けた模擬試験、本学出身の先輩教員から学ぶ会等を実施している。

[長所・特色]

継続的な取り組みにより、教員採用試験に向けた実力を向上させることができた。3年次の春休みから本格的に参加する学生が多いが、現役合格を実現した学生は2年次の春休みから計画に取り組んでいる。

[取り組み上の課題]

教職を第1希望とする学生に対し、教員採用試験に向けた学修の継続と積み重ねが大切であることを重ねて周知し、2年次から計画的、継続的な取り組みを指導する。

<根拠となる資料・データ等>

令和3年度大学機関別認証評価自己点検・評価書 令和3年6月富士大学

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

[現状説明]

教育課程の質的向上を図るため、教職課程コアカリキュラム対応表に基づき、各科目のシラバスを作成している。授業の概要と到達目標及び学修方法について明記し、内容について年度ごとにチェックを行っている。

教職課程のカリキュラムについて学生の理解が図られるよう、年度初めに各年次を対象としたオリエンテーションを実施し、履修科目、体験及び研修、必要な手続き等について周知を図っている。

[長所・特色]

教職課程履修学生のオリエンテーションへの出席状況は良好である。欠席した学生に対しては、教務部が呼び出して個別の指導を行っている。

[取り組み上の課題]

特記事項なし

<根拠となる資料・データ等>

教職課程オリエンテーション資料

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

[現状説明]

コロナ禍をきっかけに、それまで実施していた学校公開研究会や学校参観、教育実習学生の授業参観等への参加が困難な状況となった。2022（令和4）年度から、いくぶんの落ち着きを見せたことから、大学近隣の中学校・高等学校の協力を得て、教職ゼミ所属3年次学生が授業や部活動の参観及び指導補助を体験する「学生による教師の働き方体験」を実施した。

教育実習が教職課程における学びの集大成となることから、実習校への訪問指導を積極的に行っている。実習後の教職実践演習では、実習において明らかになった課題を解決する学びと合わせて、特別支援学校における特別支援教育コーディネータによる講義、県立総合教育センターにおいて教育 DX(デジタル・トランスフォーメーション)についての研修を実施している。体験研修によって学生の意識は大きく変化し成長している。

[長所・特色]

「学生による教師の働き方体験」では、2か月間に10回程度の体験を実施することにより、教職に対する意識が高まり、自身の課題をより明確にすることができた。教育実習実施前に学校での仕事を体験することは非常に有意義であった。体験を引き受けた学校から、実施の意義と成果について高い評価をいただいた。

[取り組み上の課題]

中学校・高等学校、特別支援学校、県立総合教育センターの協力を得て、これらの活動について継続実施を図る。

<根拠となる資料・データ等>

「学生による教師の働き方体験」のまとめ

富士大学学術研究会報「星辰」 第101号 2023年3月発行

Ⅲ 総合評価

今年度は、現役学生の採用試験合格、教職大学院への進学を実現することができた。本学で取得可能な免許以外の免許取得のため、在学中から取り組む学生や、小学校や特別支援学校の講師として採用される学生も出ており、教員養成の多様なニーズに応じていると考えられる。

人間的な魅力を持つ学生との出会いを大切に、教師になる夢を実現するため、教師の道を歩み出すことができる資質と確かな実践的指導力を身につけることが一層求められる。引き続き教職に必要な学び続ける力を身につけることができるよう、学びの質保証に取り組んでいかなければならない。

Ⅳ 「教職課程自己点検・評価 報告書」作成プロセス

教職支援センターと教務部が、諸データをもとに「教職課程自己点検・評価 報告書」の原案を作成し、教職課程委員会において検討し取りまとめを行った。

Ⅴ 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在					
法人名	学校法人 富士大学				
大学・学部名	富士大学・経済学部				
学科	経済学科 経営法学科				
1 卒業者数、教員免許取得者数、教員就職者数等					
① 令和3年度卒業者数				175	
② ①のうち、就職者数（企業、公務員等を含む）				165	
③ ①のうち、教員免許取得者の実数（複数免許取得者も1と数える）				21	
④ ②のうち、教職に就いた者の数（正規採用＋臨時的任用の合計数）				4	
④のうち、正規採用者数				0	
④のうち、臨時的任用者数				4	
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	25	9	2	0	0
相談員・支援員など専門職員数 1（専任カウンセラー）					